（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	グッドかなざわ			
○保護者評価実施期間	令和8年2月16日	～	令和8年3月3日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	20	（回答者数）	15
○従業者評価実施期間	令和8年2月16日	～	令和8年2月23日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月4日			

○ 分析結果

今回の保護者評価では、多くの項目において「はい」の回答が多数を占め、環境面・支援内容・職員の関わり・安心感・満足度について、概ね高い評価をいただきました。

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心して過ごせる環境づくり	活動スペースや生活空間について、多くの保護者から「十分に確保できている」「心地よい」との評価子どもの特性に応じた環境構成や配慮が行き届いているとの意見利用定員については、現在の支援のスペースとの関係を踏まえ、無理のない受入れ人数を設定している。生活空間については、こどもが見通しを持ちやすいよう、活動場所の分離や配置の工夫を行っている。清掃や整理整頓を日常的に行い、清潔で心地よく過ごせる環境づくりに努めている。必要に応じて、こどもが個別で落ち着ける場所を使用できるよう配慮している。	子どもが見通しをもって安心して過ごせる環境づくり トイレのドアノブが握りにくい、重い、着替えスペースが暗く狭いなど、設備面での課題がある。 台所の給湯器周辺が使いにくく、安全面・作業面での改善が必要。 トイレ改修等、こどもの使いやすさを重視した環境改善について検討が必要。
2	子ども理解に基づく支援・個別支援計画	個別支援計画が、子どもや保護者のニーズを踏まえて作成されている 職員間で日常的に話し合いを行い、支援の振り返りや改善点の共有を行っている。 保護者評価や職員の意見を踏まえ、業務改善につなげる意識を持って運営している。	支援のねらいや成長の変化を、より丁寧に言葉で共有する。 PDCAサイクルについては、体系立てた形ではなく「ざっくり」とした運用になっているため、目標設定と振り返りを明確にする必要がある。 外部評価については、今後より計画的に活用していく必要がある。
3	職員の関わり・情報共有	「共感的に支援されている」と感じている保護者が多い 児童発達支援管理責任者だけでなく、支援に関わる職員が共通理解のもとで支援を行っている。 活動プログラムはチームで立案し、固定化しないよう工夫している。	保護者との対話の機会を大切にし、不安や困り感を早期に共有。支援前後の打ち合わせや振り返りが「毎日」「その日中」に実施できていない場合がある。 支援記録について、保護者向け連絡帳以外に、より具体的な内部記録の充実が必要。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員体制への不安	ご意見 「人手不足かと思うが、もう少しいていただけるとありがたい」 事業所の受け止め 安全・安心な支援体制の維持は重要な課題と認識	職員配置や業務体制の見直し 必要に応じた人員確保と、支援の質の維持
2	家族支援・ペアレントトレーニングへの期待	ご意見 「家庭での対応に困っている」 「ペアレントトレーニングの機会があったら嬉しい」家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）について、実施機会が限られている	家族支援のニーズを踏まえた情報提供 小規模・参加しやすい形での学びや相談の場の検討
3	保護者・きょうだい同士の交流機会	ご意見 「もう少しあったら嬉しい」ホームページについて、内容の見直しや更新が必要。	無理のない範囲での交流機会の検討 保護者同士がつながれる機会づくりの工夫。 個人情報ファイルの管理において、ごくまれに施錠が不十分なことがあり、再徹底が必要。